

「笑顔の感染」

11月12日（金）に、本校開校時からの名物行事、今回で12回目となる「28km遠行」が行われました。当日は、肌寒さを感じる朝になり、前日からの雨が少し残る天気となりましたが、午後は晴れ間も見える遠行日和となりました。

そのような中でも、生徒たちは、自分の体調・体力に合わせてマイペースで行く者、限界に挑戦し颯爽と走る者など様々でありましたが、28kmという距離をそれぞれに楽しみながら、完走完歩していました。



チェックポイントでは、生徒の水分補給等のお手伝いに多くの保護者の皆様の協力をいただきありがとうございました。家庭科選択生徒が本校キャンパス内の梅を利用してつくった「梅ジュース」も大変好評でした。

遠行前にあった学年朝会の折に3学年生徒代表の勝田さんが「受験は団体戦です。3年生みんなで協力して頑張ろうということと、今週末の28km遠行は高校生活最後の大きな行事なので、3年生みんなで楽しみながら頑張りましょう。」と話していました。

勝田さんの思いがこもった話を聞きながら、三年生にとっては、どの行事も高校生活最後となるということを改めて感じるとともに、それぞれの目標に向け明桜館生一丸となってゴールしてくれることを職員全員で応援していきたいと思えます。

遠行スタート時、笑顔の効果について話し「苦しいときほど笑顔を忘れずに頑張ろう」と激励しました。その話は、本校の朝の学習「新聞コラムを読もう」の池谷裕二著『脳には妙なクセがある』に書かれていたものでした。それによると、笑顔は感染するという研究もあるとのことでした。

28キロの道中、生徒たちはそれぞれに明るいあいさつを交わし、苦しいながらも笑顔で遠行を楽しんでいました。

笑顔が広がる 笑顔が感染していく 笑顔舞う明桜館となるよう、さらに職員・生徒・保護者の皆様と、また地域の方々の協力も得ながら、さらに歩を進めていきたいと遠行終了の爽快感とともに感じています。

